

届出

[平成19年度設置]

計画の区分：学部^{注1}の学科設置

注1

杏林大学 保健学部 救急救命学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 杏林学園
平成22年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 八王子事務部教務課

職名・氏名 カチョウ アオヤギ タカノリ
課長・青柳 貴徳

電話番号 042-691-8713

（夜間） 042-691-0011

F A X 042-691-1094

e-mail takao@ks.kyorin-u.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は届出時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には届出時の旧名称を記載いただき、その下欄に

（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部
（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 〇〇学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 〇〇学部 〇〇学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

目次

| | | |
|----|---------------|-------|
| 1. | 調査対象大学等の概要等 | 1～3 |
| 2. | 授業科目の概要 | 4～16 |
| 3. | 施設・設備の整備状況、経費 | 17 |
| 4. | 既設大学等の状況 | 18 |
| 5. | 教員組織の状況 | 19～43 |
| 6. | 留意事項に対する履行状況等 | 44 |
| 7. | その他全般的事項 | 45～47 |

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学 校 法 人 杏 林 学 園

(2) 大学名

杏 林 大 学

(3) 大学の位置

〒192-8508

東京都八王子市宮下町476番地

(〒181-8611)

(東京都三鷹市新川六丁目20番2号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

| 職 名 | 届 出 時 | 変 更 状 況 | 備 考 |
|---------|--|--------------------------------|------------------------------------|
| 理 事 長 | (マツダ ヒロハル) 松田 博青 (昭和63年2月) | | |
| 学 長 | (ナガサワ トシヒコ) 長 澤 俊 彦 (平成19年4月) | (アトミ ユタカ) 跡見 裕 (平成22年4月) | 任期満了のため。 変更年月日 平成22年4月1日(22) |
| 学 部 長 | (オオタキ ジュンイチ) 大 瀧 純 一 (平成18年4月) | | |
| 学 科 長 等 | | | |

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成19年度に報告済の内容 → (19)

平成22年度に報告する内容 → (22)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成19年度開設の4年制の学科の場合(平成22年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

| 調査対象学部等の名称(学位) | 設置時の計画 | | | | 備考 |
|---------------------------------|--------|------|-----------|------|----|
| | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | |
| 保健学部 救急救命学科 学士(救急救命学) | 4年 | 40人 | 3年次 5人 | 170人 | |

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

| 区分 | 対象年度 | | | | 平均入学定員超過率 | 備考 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|--------------|-----------|----|
| | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | | |
| A 入学定員 | 40人 (-) | 40人 (-) | 40人 (5) | 40人 (5) | 1.23 倍 | |
| 志願者数 | (-) 321 | (-) 317 | (-) 349 | (1) 312 | | |
| 受験者数 | (-) 293 | (-) 292 | (-) 317 | (1) 296 | | |
| 合格者数 | (-) 121 | (-) 122 | (-) 110 | (0) 115 | | |
| B 入学者数 | (-) 49 | (-) 47 | (-) 50 | (-) 52 | | |
| 入学定員超過率 B/A | (-) 1.22 | (-) 1.17 | (-) 1.25 | (-) 1.3 | | |

- (注) ・ () 内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については, 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入し, 平均入学定員超過率も同様の方法としてください。
 ・ 「平成22年度」には, 平成22年5月1日現在の状況を記入してください。
 ・ 「平成19~21年度」には, 確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

| 学年 | 対象年度 | | | | 備考 |
|-----|-------------|-------------|--------------|--------------|--|
| | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | |
| 1年次 | [-] 49 | [-] 47 | [-] 52 | [-] 52 | 平成21年度入学者数と平成21年度1年次在学者の差異は、平成20年度1年次入学者で2名留年したため。 |
| 2年次 | [-] - | [-] 48 | [-] 42 | [-] 50 | |
| 3年次 | [-] - | [-] - | [-] 47 | [-] 40 | |
| 4年次 | [-] - | [-] - | [-] - | [-] 47 | 平成20年度、健康福祉学科より1名が2年次に転学科。 |
| 計 | [-] 49 | [-] 95 | [-] 141 | [-] 189 | |

- (注) ・ [] 内には, 留学者の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 各年度の5月1日現在の状況を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

| 区分 対象年度 | 退学者数 (a) | 入学者数 (b) | 入学者に対する 退学者数の割合 (a/b) |
|------------|----------------------------------|-----------------|-----------------------------|
| 平成19年度 | 計 2 [0] | (累積)計 49 [0] | [0 %] |
| | うち平成19年度入学者 2 | うち平成19年度 49 人 | 0 % |
| | (主な退学理由) ・進路模索(1) ・進路変更(1) | | |
| 平成20年度 | 計 4 [0] | (累積)計 96 [0] | [0 %] |
| | うち平成19年度入学者 1 人 | うち平成19年度 49 人 | 0 % |
| | うち平成20年度入学者 3 人 | うち平成20年度 47 人 | |
| | (主な退学理由) ・親の介護(1) ・進路変更(3) | | |
| 平成21年度 | 計 4 [0] | (累積)計 146 [0] | [0 %] |
| | うち平成19年度入学者 0 人 | うち平成19年度 49 人 | 0 % |
| | うち平成20年度入学者 3 人 | うち平成20年度 47 人 | |
| | うち平成21年度入学者 1 人 | うち平成21年度 50 人 | |
| | (主な退学理由) ・進路模索(3) ・進路変更(1) | | |
| 平成22年度 | 計 0 [] | (累積)計 198 [] | [0 %] |
| | うち平成19年度入学者 0 人 | 平成19年度 49 人 | 0 % |
| | うち平成20年度入学者 0 人 | 平成20年度 47 人 | |
| | うち平成21年度入学者 0 人 | 平成21年度 50 人 | |
| | うち平成22年度入学者 0 人 | 平成22年度 52 人 | |
| | (主な退学理由) | | |

(注)・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。

- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、各対象年度における退学者数を開設年度から当該年度までの入学者（累積）で除した割合（%）を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他
- ・「平成22年度」については5月1日現在の状況を記入してください。
- ・「平成19～21年度」には、確定した数値を記入してください。

2 授業科目の概要

<保健学部 救急救命学科>

(1) 授業科目表

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 備考 | |
|----------|-----------------------------|------------|-----|--------|----|----------|-----|----|----|----|----|--|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | |
| 人文・社会学系 | 哲学 (生と死-その論理と倫理) | 1 前後 | | 2 | | | | | | | | 退職のため、平成19年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | 法学(法の原理と理念) | 1 前 | | 2 | | | | | | | | |
| | 日本国憲法 | 1 後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 社会学 (人間と社会-社会学の新たな展開) | 1 前後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 倫理学 (人間とは何か-時代と人間認識) | 1 前 | | 2 | | | | | | | | 退職のため、平成19年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | 生命倫理学 (生と死-その論理と倫理) | 1 後 | | 2 | | | | | | | | 退職のため、平成19年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | 心理学(自己と外界の心理学) | 1 前 | | 2 | | | | | | | | 他学部との合同科目で履修者が多く、 2名で担当していたが、少人数教育を図るため、学部単独開講に変更した。 これに伴い、平成21年度より (兼任)1名で担当(21) |
| | 発達心理学 | 1 後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 教育心理学 | 1 前 | | 2 | | | | | | | | 開講曜日時限が調整困難のため平成22年度より変更(22) (兼任)→ (兼任) |
| | 芸術 (いろいろな音楽のルーツを訪ねて) | 1 前後 | | 2 | | | | | | | | 退職のため、平成22年度より変更(22) (兼任)→ (兼任) |
| | 民俗学 (各国の民間伝承と歴史認識) | 1 前後 | | 2 | | | | | | | | 退職のため、平成21年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) (兼任)退職のため、平成22年度未開講(22) |
| 小計(11科目) | — | 0 | 22 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 数学・物理学系 | 基礎物理学 | 1 前 | | 1 | | | | | | | | |
| | 物理学 (物理学の基礎-運動・熱・電気を中心に) | 1 後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 医用工学概論 | 1 前 | | 2 | | | | | | | | 少人数教育を図るため、合同開講学科数を削減して開講した。これに伴い、平成20年度より担当者を変更(21) (兼任)→ (兼任)・(兼任) |
| | 数学 | 1 前 | | 2 | | | | | | | | |
| | 統計学 | 1 後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 医療情報科学 情報処理演習 | 2 前 2 前 | | 2 2 | | | | | | | | 他学科合同開講で、当初3名で担当していたが、少人数教育を図るため、平成21年度より当該学科単独開講とし、 (兼任)1名で担当(21) |
| 小計(7科目) | — | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | 基礎化学 | 1 前 | | 1 | | | | | | | | |
| | 無機化学 | 1 前 | | 2 | | | | | | | | 他学科との合同開講で、当初2名で担当していたが、少人数教育を図るため、当該学科単独開講とし、平成20年度より (兼任)1名で担当(21) |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|--|--|
| 化学系 | 生物有機化学Ⅰ | 1前 | | 2 | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成19年度より追加(21) (兼任) |
| | 生物有機化学Ⅱ | 1後 | | 2 | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成19年度より追加(21) (兼任) |
| | 化学実験 | 1前 | | 1 | | | | | | | | 4名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成21年度より(兼任)・(兼任)2名で担当(21) |
| | 小計(5科目) | — | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 生物学系 | 基礎生物学 | 1前 | | 1 | | | | | | | | 他学科との合同開講で、履修者が多く、少人数教育を図るべく合同開講学科数を調整したため、平成19年度より変更(21) (兼任)→(兼任) 生命科学概論との体系を図ることとし、解剖学的視点からの教育を踏まえ、平成21年度より3名のうち2名の担当者を変更(21) (兼任)・(兼任)→(兼任)・(兼任) 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成19年度より(兼任) 1名に担当者を変更(21) |
| | 生命科学概論 | 1前 | | 2 | | | | | | | | |
| | 細胞生物学 | 1後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 人類遺伝学 | 1後 | | 2 | | | | | | | | |
| | 生物学実験 | 1前 | | 1 | | | | | | | | |
| 小計(5科目) | — | | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 言語系 | 日本語表現法 | 1前後 | | 2 | | | | | | | | 退職のため、平成19年度より変更(21) (兼任)→(兼任) |
| | 英語Ⅰ | 1前 | 2 | | | | | | | | | 退職のため、平成21年度より変更(21) (兼任)・(兼任)→(兼任) |
| | 英語Ⅱ | 1後 | 2 | | | | | | | | | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22) (兼任)→(兼任) 退職のため、平成21年度より変更(21) (兼任)・(兼任)→(兼任) |
| | 英語Ⅲ | 2前 | | 2 | | | | | | | | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22) (兼任)→(兼任) 退職及び開講曜日時限の調整が困難のため平成21年度より変更(21) (兼任)退職・(兼任)辞退→(兼任) |
| | 英語Ⅳ | 2後 | | 2 | | | | | | | | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22) (兼任)→(兼任) 開講曜日時限の調整が困難のため平成21年度より変更(21) (兼任)→(兼任) |
| | 英会話 | 2前後 | | 2 | | | | | | | | 開講曜日時限の調整が困難のため平成22年度より変更(22) (兼任)→(兼任) 退職及び開講曜日時限の調整が困難のため平成21年度より変更(21) (兼任)退職・(兼任)退職・(兼任)辞退→(兼任) |
| | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|------|----------|------------|---|----|---|---|---|---|---|---|---|
| | 医学英語 | 2 後 | | 2 | | | | | | | 退のため平成22年度より変更(22) (兼任)→ (兼任)・ (兼任) 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成21年度より (兼任)1名で担当(21) 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成21年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成21年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | フランス語Ⅰ | 1 前 | | 2 | | | | | | | |
| | フランス語Ⅱ | 1 後 | | 2 | | | | | | | |
| | フランス語Ⅲ | 2 前 | | 2 | | | | | | | |
| | フランス語会話 | 2 後 | | 2 | | | | | | | |
| | 小計(11科目) | — | 4 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 体育学系 | 健康スポーツ科学 | 1 前 | | 2 | | 0 | 0 | | | 1 | 定年退職による専任等区分の変更(21) (専任)→(兼任) 死亡退職のため、平成21年度より削除(21) (准教授) 実技指導の充実を図るため、平成19年度より専任等区分の変更(21) (兼任)→(助教) 3名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成21年度より (兼任)1名で担当(21) 退職のため、平成22年度より変更(22) (兼任)→ (助教) |
| | 体育実技Ⅰ | 1 通 1前後 | 2 | | | 0 | 0 | | | 1 | 定年退職による専任等区分の変更(21) (専任)→(兼任) 死亡退職のため、平成21年度より変更(21) (准教授)→ (兼任) 専任等区分の変更に伴い、平成19年度より (助教)を追加(21) (兼任)退職のため、平成22年度より削除(22) |
| | 体育実技Ⅱ | 2 前 | 1 | | | 0 | 0 | | | 1 | 定年退職による専任等区分の変更(21) (専任)→(兼任) 死亡退職のため、平成21年度より変更(21) (准教授)→ (兼任) 専任等区分の変更に伴い、平成19年度より (助教)を追加(21) (兼任)退職のため、平成22年度より削除(22) |
| | 小計(3科目) | — | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 医学概論 | 1 前 | | 2 | | 5 | | | | | 医院開業を理由として退職のため、平成21年度より変更(21) (教授)→ (教授) 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成19年度より一部担当者の変更及び追加(21) 変更 (兼任)→ (教授)・ (兼任)→ (兼任) (兼任)→ (兼任) 追加 (教授)・ (兼任) (教授)・ (教授)・ (兼任)・ (兼任)・ |

| | | | | | | | | | | |
|-------|----------|----|----|----|---|---|---|---|---|--|
| 基礎医学系 | 公衆衛生学Ⅰ | 1前 | 2 | | | | | | | (兼任) 公衆衛生学分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より追加(21) (兼任) |
| | 公衆衛生学Ⅱ | 1後 | | 2 | | 1 | | | | |
| | 解剖学Ⅰ | 1前 | 2 | | | | | | | 開講形式をオムニバス方式に変更したため、平成21年度より追加(21) (兼任)・ (兼任) 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より削除(22) (兼任) |
| | 解剖学Ⅱ | 1後 | | 2 | | | | | | 開講形式をオムニバス方式に変更したため、平成21年度より追加(21) (兼任)・ (兼任) 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22) (兼任)→ (兼任) |
| | 生理学Ⅰ | 1前 | 2 | | | 1 | | | | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より変更(21) (兼任)・ (兼任)→ (教授) |
| | 生理学Ⅱ | 1後 | | 2 | | 1 | | | | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より変更(21) (兼任)・ (兼任)→ (教授) |
| | 生化学 | 1後 | 2 | | | | | | | 他学科との合同開講で、当初2名で担当していたが、少人数教育を図るため、当該学科単独開講とし、平成19年度より担当者を (兼任) から (兼任)に変更(21) 定年退職のため、平成19年度より削除(21) (兼任) |
| | 病理学 | 1後 | 2 | | | | | | | |
| | 微生物学 | 1後 | 2 | | | | | | | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | 血液学 | 2前 | | 2 | | | | | | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) (兼任)→ (兼任)・ (兼任)・ (兼任) |
| | 免疫学 | 1後 | | 2 | | | | | | 病気退職のため、平成20年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | 薬理学 | 2前 | 2 | | | | | | | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) (兼任)→ (兼任) |
| | 救命救助法 | 1前 | 1 | | | 1 | | 0 | 5 | 心肺蘇生法及びAEDの使用方法に関する、より専門的な教育を行うため、平成21年度より変更(21) (教授)→ (教授) 実習指導の充実を図るため、担当者を追加及び変更(21)追加 (助教)変更 (助教)→ (助教) 定年退職による専任等区分の変更(22) (専任)→(兼任) 履修者数の増加に伴い、実習指導の充実を図るため、担当者を追加(22) (助教)・ (助教)・ (助教)・ (兼任) |
| | 小計(14科目) | — | 15 | 12 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 | 0 |

| | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|---|---|--|--------|--|--------|--|--|
| 内科学 I | 2 後 | 2 | | | 0 + | | | | (教授) 医院開業を理由として退職のため、平成21年度より(兼任)1名で担当(21) |
| 内科学 II | 2 前 -2 後 | 2 | | | 1 | | | | 神経系科目の「脳外科学」と同一学期に開講していたため、教育効果を考え開講学期を後期から前期に変更(22) |
| 内科学 III | 2 前 | 2 | | | 1 | | | | |
| 内科学 IV | 2 後 | | 2 | | | | | | |
| 内科学 V | 2 前 | | 2 | | | | | | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22) (兼任)→(兼任) |
| 内科学 VI | 2 前 | | 2 | | 1 | | | | 開講曜日時限の調整困難のため平成21年度より変更(21) (兼任)→(教授) |
| 医療コミュニケーション学 | 3 前 | | 2 | | 1 - | | | | (教授) 医院開業を理由として退職のため、平成21年度は未開講(21)集中 (教授) 退職のため、平成22年度より変更(22) (教授)→(兼任) |
| 医療安全論 | 4 後 -4 前 | | 2 | | 1 | | | | 救急症例を中心とした講義内容で、卒業直前に開講する方がより教育効果を高めると判断したため、開講学期を前期から後期に変更(22) |
| 救急医学概論 | 1 前 | 2 | | | 1 | | 0 + | | 実習科目との重複により講義担当困難のため、平成20年度より変更(21) (講師)→(兼任) 退職のため、平成21年度より削除(21) (兼任) |
| 救急処置総論 | 1 後 | 2 | | | 1 - | | 0 + | | 実習科目との重複により講義担当困難のため、平成21年度より変更(21)担当(教授)→(助教) 救急救命士養成における、より専門性の高い医学的知識の習得を図るため、平成21年度より追加(21) (兼任)・(兼任) 実習科目との重複により講義担当困難のため、平成22年度より削除(22) (助教) |
| 救急処置各論 | 2 前 | 2 | | | 1 - | | | | コマ担当として時間割の編成上、調整がつかなかったため、平成20年度より変更(21)(教授)→(兼任) 退職のため、平成21年度より削除(21) (兼任) |

| | | | | | |
|------------|----|---|---|---|--|
| 災害医学 | 3前 | 2 | 1 | | 開講曜日時限の調整困難のため平成22年度より変更(22) (兼任)→(兼任) |
| 外科学 I | 3前 | 2 | 1 | | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より担当者を追加(21)(教授)・(兼任)・(兼任)・(兼任)・(兼任)退職のため、平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成22年度より担当者を追加(22)(兼任)外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より追加(21)(教授)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)(兼任)→(兼任)・(兼任)退職のため、平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)退職のため、平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)開講曜日時限の調整困難のため平成22年度より削除(22)(兼任) |
| 外科学 II | 3前 | 2 | 1 | | |
| 外傷学 | 2前 | 2 | 1 | | 定年退職による専任等区分の変更(22)(専任)→(兼任)退職のため、平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)開講曜日時限の調整困難のため平成22年度より削除(22)(兼任) |
| 環境障害・急性中毒学 | 2後 | 2 | 1 | | |
| 救急搬送論 | 3前 | 2 | | 0 | |
| 小児科学 | 3前 | 2 | | + | |
| | | | | | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)(兼任)→(兼任)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22)(兼任)・(兼任)→(兼任)退職のため、平成22年度より削除(22)(兼任)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22)(兼任)→(兼任)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成21年度より変更(21)(兼任)→(兼任)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成22年度より変更(22)(兼任)→(兼任) |
| 産婦人科学 | 3前 | 2 | | | |
| 整形外科学 | 3前 | 2 | | | |
| 脳外科学 | 2後 | 2 | 1 | | |

| | | | | | | | | |
|-------|-----------|-----|---|---|---|--------|--------|--|
| 救急医学系 | 精神医学 | 3 前 | | 2 | | | 1 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため平成21年度より変更(21) (兼任)→(助教) |
| | 放射線概論 | 2 後 | | 2 | | | | |
| | シミュレーションⅠ | 2 前 | 2 | | 1 | 0 + | 6 - | 心肺蘇生法、応急処置等に関する、より専門的な実習指導を行うため、平成21年度より変更(21) (教授)→(教授) 少人数グループ指導実践のため、担当者を追加(21) (助教)・(助教)・(助教)・(助教)・(兼任)・(兼任) 定年退職による専任等区分の変更(22) (専任)→(兼任) 育児休業中のため平成22年度より削除(22) (助教) 退職のため、平成22年度より削除(22) (助教) (助教)退職に伴い、実技指導の充実を図るため、平成22年度より専任等区分の変更(22) (兼任)→(専任) |
| | シミュレーションⅡ | 2 後 | 2 | | 1 | 0 + | 7 - | 応急処置、傷病者観察及び搬送等に関する、より専門的な実習指導を行うため、平成21年度より変更(21) (教授)→(教授) 少人数グループ指導実践のため、担当者を追加(21) (助教)・(助教)・(助教)・(助教)・(兼任)・(兼任) 定年退職による専任等区分の変更(22) (専任)→(兼任) 退職のため平成22年度より削除(22) (助教) (助教)退職に伴い、実技指導の充実を図るため、平成22年度より専任等区分の変更(22) (兼任)→(専任) |
| | シミュレーションⅢ | 3 前 | | 3 | 1 | 0 + | 6 - | 除細動、気管挿管及び薬剤投与等に関する、より専門的な実習指導を行うため、平成21年度より変更(21) (教授)→(教授) 少人数グループ指導実践のため、担当者を追加(21) (助教)・(助教)・(助教)・(助教)・(兼任)・(兼任) 退職のため、平成21年度より担当者を変更(21) (兼任)→(兼任) 定年退職による専任等区分の変更(22) (専任)→(兼任) |
| | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|-----|-----|---|---------|---|---------|---------|---|--|
| | | | | | | | | | | (助教)→ (助教) |
| 病院内実習 | 3 後 | | 1 0 | | 1 -4 | | | 0 -2 | | 集中 医院開業を理由として退職のため、平成21年度より変更(21) (教授)→ (助教) 当初実習指導教員として7名を準備していたが、実習期間を延長したことにより、1グループの学生数を減らすことが可能となったため、4名の実習教員で担当が可能となった。これに伴い、 (教授)・ (教授)・ (兼担)については、実習担当から除外(21) 実習科目との重複により調整困難のため、平成22年度より削除(22) (助教) 実習担当の調整困難のため平成22年度より削除(22) (兼担) 育児休職中のため平成22年度より削除(22) (助教) |
| 救急車同乗実習 | 3 後 | | 3 | | 5 -2 | | 0 -1 | 5 -2 | | 集中 少人数グループ指導実践のため、担当者を追加(21) (教授)・ (教授)・ (教授)・ (助教)・ (助教)・ (助教) 定年退職による専任等区分の変更(22) (専任)→(兼任) 育児休職により、担当者を変更(22) (助教)→ (助教) |
| 小計(31科目) | — | 1 6 | 5 7 | 0 | 5 -3 | 0 | 0 -1 | 7 -2 | 0 | |
| 衛生学系 | 産業保健学 | 2 前 | 2 | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成19年度より追加(21) (兼担) |
| | 環境衛生工学 | 3 前 | 2 | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成21年度より追加(21) (兼担) |
| | 職業適性論 | 2 後 | 2 | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成20年度より追加(21) (兼担) 退職のため、平成22年度より変更(22) (兼担)→ (兼担) 退職のため、平成22年度より変更(22) (兼担)→ (兼担) |
| | 労働衛生法規 I | 4 前 | 2 | | | | | | | |
| | 労働衛生法規 II | 4 前 | 2 | | | | | | | |
| 小計(5科目) | — | 0 | 1 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 移植コーディネータ論 | 2 後 | | 2 | | 2 -1 | | | | | 退職のため、平成20年度より変更(21) (兼任)→ (教授) 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) (教授)・ (兼担)・ (兼担)・ (兼担)・ (兼担)・ (兼担)・ (兼担) |

総合

特別演習Ⅱ

1~4
1+2
前後

1

0 0
+ +

1

(兼任)・ (兼任)
 教育効果を高めるため、平成22年度より
 配当学年を追加(22)
 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担
 当者の専門分野のテーマ)を提示のう
 え、複数の教員が担当することとし、
 学生は、いずれかの教員の副題を選択
 し、履修をする形態をとっている。
 以下の教員については、平成22年度
 開講されていない。(22)
 担当 (兼任)・ (兼任)・
 (兼任)・ (兼任)・
 (兼任)・ (兼任)・ (兼任)
 集中
 定年退職のため、平成21年度より削除
 (21) (教授)
 死亡退職のため、平成21年度より削除
 (21)担当 (准教授)
 病気退職のため、平成20年度より変更
 (21) (兼任)→ (兼任)・
 (兼任)
 退職のため、平成20年度より変更(21)
 (兼任)→ (兼任)・
 (兼任)・ (兼任)
 教育効果を高めるため、平成19年度より
 追加(21) (兼任)・
 (兼任)・ (兼任)
 副題が変更となったことに伴い、
 平成21年度より担当者を (兼任)
 に変更(21)
 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担
 当者の専門分野のテーマ)を提示のう
 え、複数の教員が担当することとし、
 学生は、いずれかの教員の副題を選択
 し、履修をする形態をとっている。
 以下の教員については、これまで開講
 されていない。(21)
 担当 (兼任)・ (兼任)・
 (兼任)・ (兼任)・
 (兼任)・ (兼任)・ (兼任)
 教育効果を高めるため、平成22年度より
 追加(22) (助教)
 開講日程の調整困難のため、平成22年
 度より以下の教員を削除(22)
 (兼任)・ (兼任)
 教育効果を高めるため、平成22年度より
 配当学年を追加(22)
 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担
 当者の専門分野のテーマ)を提示のう
 え、複数の教員が担当することとし、
 学生は、いずれかの教員の副題を選択
 し、履修をする形態をとっている。
 以下の教員については、平成22年度
 開講されていない。(22)

(3) 未開講科目

| 番号 | 授業科目名 | 単位数 | 配当年次 | 一般・専門 | 必修・選択 | 未開講の理由, 代替措置の有無 |
|----|-------|-----|------|-------|-------|--|
| 1 | 民俗学 | 2 | 1 | 一般 | 選択 | 平成22年度開講を予定していたが、平成21年度末に担当者から急遽退職の申し出があり、後任の調整が間に合わず、開講することが困難となったため。 なお、今年度は代替措置を行っていないが、次年度開講できるよう後任の調整を行っている。 |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

| 番号 | 授業科目名 | 単位数 | 配当年次 | 一般・専門 | 必修・選択 | 廃止の理由, 代替措置の有無 |
|----|-------|-----|------|-------|-------|----------------|
| 1 | 該当なし | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

- (注) ・届出時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「民俗学」については、年度末の退職の申し出で後任の調整が間に合わず、開講が困難であったため休講とした。なお、上記科目については、履修要目にて学生に周知した。

- (注) ・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \frac{1}{100} = 0.01$$

- (注) ・小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

| 区 分 | | 内 容 | | | | 備考 | | |
|---------------------|----------------------------|---|---|-----------------------------------|---------------------------|----------------|------------|---|
| (1) 校 地 等 | 区 分 | 専 用 | 共 用 | 共用する他の 学校等の専用 | 計 | 大学全体 | | |
| | 校 舎 敷 地 | 136,727.16 m ² | — m ² | — m ² | 136,727.16 m ² | | | |
| | 運 動 場 用 地 | 14,570.00 m ² | — m ² | — m ² | 14,570.00 m ² | | | |
| | 小 計 | 151,297.16 m ² | — m ² | — m ² | 151,297.16 m ² | | | |
| | そ の 他 | 34,950.65 m ² | — m ² | — m ² | 34,950.65 m ² | | | |
| | 合 計 | 186,247.81 m ² | — m ² | — m ² | 186,247.81 m ² | | | |
| (2) 校 舎 | 専 用 | 74,221.81m ² | — m ² | — m ² | 74,221.81 m ² | 大学全体 | | |
| | (74,221.81m ²) | (— m ²) | (— m ²) | (74,221.81m ²) | | | | |
| (3) 教 室 等 | 講 義 室 | 演 習 室 | 実 験 実 習 室 | 情 報 処 理 学 習 施 設 | 語 学 学 習 施 設 | 大学全体 | | |
| | 90室 | 105室 | 35室 | 9室 (補助職員 人) | 4室 (補助職員 人) | | | |
| (4) 専任教員研究室 | 新設学部等の名称 | | | 室 数 | | | | |
| | 保健学部 救急救命学科 | | | 11 室 | | | | |
| (5) 図 書 ・ 設 備 | 新設学部等の 名称 | 図 書 〔うち外国書〕 冊 | 学術雑誌 〔うち外国書〕 種 | 電子ジャーナル 〔うち外国書〕 | 視聴覚資料 点 | 機 械 ・ 器 具 点 | 標 本 点 | 保健学部のみ 【図書】 経年劣化に伴う廃棄、 及び新規購入のため 増加(22) 【学術雑誌】 昨年度の冊数は、誤記 入。 経年劣化に伴う廃棄、 及び新規購入のため、 増加(22) 【電子ジャーナル】 契約終了に伴い、減 少。(22) 【視聴覚資料】 経年劣化に伴う廃棄に よる減少。(22) |
| | 保健学部 | 95,516 [30,464] 95,998 [28,362] (95,516 [30,464]) | 1,010 [389] 1,609 [286] 1,101 [402] 1,010 [389] 1,609 [286] | 22 [22] 21 [21] (22 [22]) | 2,958 2,826 2,958 | 0 (0) | 0 (0) | |
| | 計 | 95,516 [30,464] 95,998 [28,362] (95,516 [30,464]) | 1,010 [389] 1,609 [286] 1,101 [402] 1,010 [389] 1,609 [286] | 22 [22] 21 [21] (22 [22]) | 2,958 2,826 2,958 | 0 (0) | 0 (0) | |
| | | | | | | | | |
| (6) 図 書 館 | 面 積 | 閱 覧 座 席 数 | | 収 納 可 能 冊 数 | | 大学全体 | | |
| | 5342.13m ² | 681 | | 439,225 | | | | |
| (7) 体 育 館 | 面 積 | 体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要 | | | | 大学全体 | | |
| | 12,894.53m ² | 野球場一面 テニスコート8面 弓道場1 アーチェリー練習場1 | | | | | | |
| (8) 経費の見積り及び維持方法の概要 | 経費の見積り | 区 分 | 開設年度 | 完成年度 | 区 分 | 開設前年度 | 開設年度 | 完成年度 |
| | | 教員1人当り研究費等 | 1,511千円 | 1,511千円 | 図書購入費 | 11,667千円 | 11,900千円 | 12,628千円 |
| | 共同研究費等 | 16,164千円 | 16,164千円 | 設備購入費 | 56,451千円 | 57,580千円 | 59,883千円 | |
| | 学生1人当り 納付金 | 第1年次 | 第2年次 | 第3年次 | 第4年次 | 第5年次 | 第6年次 | |
| | | 1,900千円 | 1,650千円 | 1,650千円 | 1,650千円 | 千円 | 千円 | |
| 学生納付金以外の維持方法の概要 | | 私立大学等経常費補助金収入、手数料収入等を充当する。 | | | | | | |

(注) ・届出時の計画を設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
 ・「(3)教室等」「(5)図書・設備」等について、届出時に数値を記載する必要がなかった学部等(平成20年度届出以前)については、届出時の数値の記載は不要ですが、平成22年5月1日現在の数値を赤字で記入してください。届出時に数値を記載した学部等(平成21年度届出以降)については、届出時の数値を黒字で記載いただき、平成22年5月1日現在の状況を赤字で見え消し修正してください。
 ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定の数値を、下段には平成22年5月1日現在の数値を記入してください。
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。

4 既設大学等の状況

| 大学の名称 | 杏林大学 | | | | | | | 備考 |
|------------------|------|------|----------------|------|-----------------|-------|-------|------------------|
| 既設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 取定定員 | 学位又は称号 | 定員超過率 | 開年度 | 所在地 |
| | 年 | 人 | 年次人 | 人 | | 倍 | | |
| 医学部 医学科 | 6 | 111 | — | 576 | 学士 (医学) | 1.00 | S45年度 | 東京都三鷹市新川六丁目20番2号 |
| 保健学部 臨床検査技術学科 | 4 | 80 | 2年次 6 3年次 4 | 346 | 学士 (保健衛生学) | 1.22 | S54年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 健康福祉学科 | 4 | 40 | 2年次 6 3年次 4 | 186 | 学士 (保健衛生学) | 1.32 | S54年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 看護学科 | 4 | 100 | 2年次 2 3年次 8 | 382 | 学士 (看護) | 1.14 | H 6年度 | 東京都三鷹市新川六丁目20番2号 |
| 臨床工学科 | 4 | 40 | — | 160 | 学士 (臨床工学) | 1.27 | H18年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 救急救命学科 | 4 | 40 | 3年次 5 | 170 | 学士 (救急救命学) | 1.23 | H19年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 理学療法学科 | 4 | 40 | — | 80 | 学士 (理学療法) | 1.21 | H21年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 総合政策学部 総合政策学科 | 4 | 170 | 3年次10 | 720 | 学士 (総合政策学) | 1.20 | S59年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 企業経営学科 | 4 | 100 | 3年次 5 | 450 | 学士 (企業経営学) | 1.14 | H18年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 外国語学部 英語学科 | 4 | 110 | 3年次 5 | 455 | 学士 (文学) | 1.18 | H18年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 中国語・日本語学科 | 4 | 40 | 3年次13 | 231 | 学士 (文学) | 0.74 | H18年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 応用コミュニケーション学科 | 4 | 40 | 3年次 2 | 390 | 学士 (文学) | 1.09 | H18年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |
| 観光交流文化学科 | 4 | 70 | 3年次 3 | 70 | 学士 (観光交流文化学) | 1.34 | H22年度 | 東京都八王子市宮下町476番地 |

(注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・設置届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・「定員超過率」には、過去標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)の記載は不要です。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<保健学部 救急救命学科>

(1) 担当教員表

| 届出時の計画 | | | | | 変更状況 | | | | | 備考 | | | |
|------------|----|--------|---------|---|------------------------------|----|--------|---------|------------|--|--|--|---|
| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名(年齢) | 就任予定年月 | 担当授業科目名 | 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名(年齢) | 就任予定年月 | 担当授業科目名 | | | | |
| 専 | 教授 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学Ⅱ 内科学Ⅲ 医療安全論 特別講義Ⅰ 特別講義Ⅱ ボランティア活動 インターンシップ 卒業研究 | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成19年度より変更(21) (兼任)→ (教授) | | | |
| | | | | | | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より科目を追加(21) | | | |
| | | | | | 兼任 | 助教 | | 平成20年4月 | 特別講義Ⅱ | | | | 講義内容を解剖学としたため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | | | | | 講義内容を移植コーディネータに関連するものとしたため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | | | | | | 特別講義Ⅰ | 特別講義Ⅰについては、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) | | | |
| | | | | | | | | | 特別講義Ⅰ | 3年次前期に実習前教育の一環として見学実習を実施することとし、8月に集中講義として開講する前に院内の状況を理解することが可能となったため、平成22年度より配当年次4年次から3年次に変更(22) | | | |
| | | | | | | | | | 移植コーディネータ論 | 集中開講で日程調整が困難のため、平成22年度より削除(22) | | | |
| | | | | 移植コーディネータ論 | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) | | | | | | | | |
| 専 | 教授 | | 平成19年4月 | 内科学Ⅱ 病院内実習 特別講義Ⅱ ボランティア活動 インターンシップ 卒業研究 | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) | | | |
| | | | | | | | | | 生理学Ⅰ | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より科目を追加(21) | | | |
| | | | | | | | | | 生理学Ⅱ | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より科目を追加(21) | | | |
| | | | | | | | | | 内科学Ⅵ | 開講曜日時限の調整困難のため、平成20年度より科目を追加(21) | | | |
| | | | | | | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より科目を追加(21) | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---------|---|----|----|---------|---------|---|---|---|----------|---|
| | | | | | | | | 病院内実習 | 当初実習指導教員として7名を準備していたが、実習期間を延長したことにより、1グループの学生数を減らすことが可能となったため、4名の実習教員で担当が可能となった。これに伴い実習担当から除外(21) | | | |
| | | | | | 兼任 | 助教 | 平成20年4月 | 特別講義Ⅱ | 講義内容を解剖学としたため、平成20年度より変更(21) 講義内容を移植コーディネータに関係するものとしたため、平成22年度より削除(22) | | | |
| 専 | 教授 | 平成19年4月 | 救急処置総論 救急処置各論 脳外科学 病院内実習 救急車同乗実習 特別講義Ⅱ ボランティア活動 インターンシップ 卒業研究 | | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) | | |
| | | | | | | | | | 外科学Ⅱ | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) | | |
| | | | | 専 | 助教 | 平成19年4月 | 救急処置総論 | 実習科目との重複により講義担当困難のため、平成21年度より変更(21) | | | | |
| | | | | | | | | | | | 救急処置各論 | 実習科目との重複により講義担当困難のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | 兼任 | 講師 | 平成20年4月 | 救急処置各論 | コマ担当として時間割の編成上、調整がつかなかったため、平成20年度より変更(21) | | | | |
| | | | | | | | | | | | 病院内実習 | 当初実習指導教員として7名を準備していたが、実習期間を延長したことにより、1グループの学生数を減らすことが可能となったため、4名の実習教員で担当が可能となった。これに伴い実習担当から除外(21) |
| | | | | 兼任 | 講師 | 平成20年4月 | 特別講義Ⅱ | 講義内容を解剖学としたため、平成20年度より変更(21) 講義内容を移植コーディネータに関係するものとしたため、平成22年度より削除(22) | | | | |
| 専 | 教授 | 平成19年4月 | 健康スポーツ科学 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ ボランティア活動 インターンシップ 卒業研究 | | | | | | 特別演習Ⅰ | 定年退職による専任等区分の変更(21)専任→兼任 退職のため、平成21年度より削除(21) | | |
| | | | | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | |
| | | | | 兼任 | 講師 | | | | | | 健康スポーツ科学 | 退職のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | | | | | | | | 体育実技Ⅰ | |
| | | | | | | | | | | | 体育実技Ⅱ | |
| | | | | | | | | | | | ボランティア活動 | |
| | | | | | | | | | | | インターンシップ | |
| | | | | | | | 卒業研究 | | | | | |
| | | | | | 専 | 教授 | 平成21年4月 | 医学概論 | 医院開業を理由として退職のため、平成21年度より変更(21) | | | |
| | | | | | | | | ボランティア活動 | 医院開業を理由として退職のため、平成22年度より変更(22) | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------|----|---------|--------------|---------|----------|---|------------------------------|--|--|
| 専 | 教授 | 平成19年4月 | 医学概論 | | | | インターシッブ* | 医院開業を理由として退職のため、平成22年度より変更(22) | |
| | | | 内科学 I | | | | 内科学 I | 医院開業を理由として退職のため、平成21年度より(兼任)1名で担当 | |
| | | | 医療コミュニケーション学 | | | | 医療コミュニケーション学 | 医院開業を理由として退職のため、平成21年度未開講(21) | |
| | | | 病院内実習 | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 医療コミュニケーション学 | 医院開業を理由として退職のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | 特別講義 II | | | | | | 医院開業を理由として退職のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | ポランティア活動 | 専 | 助教 | | 平成20年4月 | 病院内実習 | 実習科目との重複により調整困難のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | 卒業研究 | | | | 講義内容を解剖学としたため、平成20年度より変更(21) | | |
| | | | | 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 特別講義 II | 講義内容を移植コーディネータに関連するものとしたため、平成22年度より削除(22) |
| 専 | 教授 | 平成19年4月 | 救命救助法 | | | | 救命救助法 | 心肺蘇生法及びAEDの使用方法に関する、より専門的な教育を行うため、平成21年度より変更(21) | |
| | | | 医療コミュニケーション学 | | | | | シミュレーション I | 心肺蘇生法、応急処置等に関する、より専門的な実習指導を行うため、平成21年度より変更(21) |
| | | | 救急医学概論 | | | | | シミュレーション II | 応急処置、傷病者観察及び搬送等に関する、より専門的な実習指導を行うため、平成21年度より変更(21) |
| | | | 救急処置総論 | | | | | シミュレーション III | 除細動、気管挿管及び薬剤投与等に関する、より専門的な実習指導を行うため、平成21年度より変更(21) |
| | | | 救急処置各論 | 専 | 教授 | | 平成21年4月 | シミュレーション IV | 重症外傷傷病者及び産科救急等に関する、より専門的な実習教育を行うため、平成21年度より変更(21) |
| | | | 災害医学 | | | | | シミュレーション V | 救急活動に関するより専門的な実習教育を行うため、平成22年度より変更(22) |
| | | | 外傷学 | | | | | シミュレーション VI | 観察判断、処置技術に関するより専門的な実習教育を行うため、平成22年度より変更(22) |
| | | | 環境障害・急性中毒学 | | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(21) |
| | | | シミュレーション I | | | | | 救命救助法 | 実習指導の充実を図るため、平成19年度より追加(21) |
| | | | シミュレーション II | | | | | 特別講義 I | 救急救命士養成における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | シミュレーション III | | | | | 特別講義 II | 救急救命士養成における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) |
| | | | シミュレーション IV | | | | | ポランティア活動 | |
| | | | シミュレーション V | | | | | インターシッブ* | |
| | | | シミュレーション VI | | | | | 卒業研究 | |
| | | | 病院内実習 | 兼任 | 講師 | | 平成20年4月 | 救急処置総論 | 救急救命士養成における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) |
| | | | 救急車同乗実習 | 専 | 助教 | | 平成19年4月 | 救命救助法 | 実習指導の充実を図るため、平成19年度より追加(21) |
| 特別講義 I | | | | | 特別講義 II | 救急救命士養成における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) | | | |
| 特別講義 II | 兼任 | 講師 | | 平成20年4月 | 救急処置総論 | 救急救命士養成における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) | | | |
| ポランティア活動 | | | | | インターシッブ* | | | | |
| インターシッブ* | | | | | 卒業研究 | | | | |
| 卒業研究 | 兼任 | 講師 | | 平成20年4月 | 救急処置総論 | 救急救命士養成における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) | | | |

| | | | | | |
|-----------|---|--|---------|-----------|---|
| 専 | 助教 | | 平成20年4月 | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) |
| | | | | シミュレーションⅡ | |
| シミュレーションⅢ | | | | | |
| シミュレーションⅣ | | | | | |
| 専 | 助教 | | 平成20年4月 | シミュレーションⅣ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | シミュレーションⅣ | |
| 専 | 助教 | | 平成20年4月 | 救命救助法 | 実習指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) |
| | | | | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) |
| | | | | シミュレーションⅡ | |
| | | | | シミュレーションⅢ | |
| | | | | シミュレーションⅣ | |
| | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(21) |
| シミュレーションⅤ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | | | |
| シミュレーションⅥ | | | | | |
| 専 | 助教 | | 平成21年4月 | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | シミュレーションⅡ | |
| | | | | シミュレーションⅢ | |
| | | | | シミュレーションⅣ | |
| | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | 救命救助法 | 履修者数の増加に伴い、実習指導の充実実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) |
| シミュレーションⅤ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | | | |
| シミュレーションⅥ | | | | | |
| 専 | 助教 | | 平成21年4月 | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | シミュレーションⅡ | |
| | | | | シミュレーションⅢ | |
| | | | | シミュレーションⅣ | |
| | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | 救命救助法 | 履修者数の増加に伴い、実習指導の充実実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) |
| シミュレーションⅤ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | | | |
| シミュレーションⅥ | | | | | |
| 専 | 助教 | | 平成20年4月 | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) |
| | | | | シミュレーションⅡ | |
| | | | | シミュレーションⅢ | |
| | | | | シミュレーションⅣ | |

| | | | | | | | | |
|-------|-------|---------|-----------|---------|-------------------------------|--|---|----------------------|
| | | | | | | | | 退職のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | 兼任 講師 | 平成20年4月 | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) | |
| | | | シミュレーションⅡ | | | | | |
| | | | シミュレーションⅢ | | | | | |
| | | | シミュレーションⅣ | | | | | |
| | | | 救命救助法 | | | 履修者数の増加に伴い、実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | |
| | | | シミュレーションⅤ | | | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | |
| | | | シミュレーションⅥ | | | | | |
| | | | 専 助教 | 平成21年4月 | シミュレーションⅠ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) | | |
| | | | | | シミュレーションⅡ | | | |
| | | | | 平成22年4月 | | (助教)退職に伴い、実技指導の充実を図るため、平成22年度より専任等区分の変更(22) 兼任→助教 | | |
| | | | | | 救命救助法 | 履修者数の増加に伴い、実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | |
| | | | | | シミュレーションⅤ | 救急救命士養成における、より専門性の高い実習指導の充実を図るため、平成22年度より追加(22) | | |
| | | | | | シミュレーションⅥ | | | |
| | | | | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(22) | | | |
| | | | 専 教授 | 平成19年4月 | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(21) | | |
| | | | 専 教授 | 平成19年4月 | 救急車同乗実習 | 少人数グループ指導実践のため、平成21年度より追加(21) | | |
| | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目の追加(21) | | |
| | | | | | 移植コーディネータ論 | (兼任)退職のため、平成20年度より科目の追加(21) | | |
| | | | 兼任 助教 | 平成20年4月 | 特別講義Ⅱ | 講義内容を解剖学としたため、平成20年度より変更(21) | | |
| | | | | | | 講義内容を移植コーディネータに関係するものとしたため、平成22年度より削除(22) | | |
| 専 准教授 | | 平成19年4月 | 健康スポーツ科学 | 兼任 講師 | 平成21年4月 | 体育実技Ⅰ | 死亡退職のため、平成21年度より変更(21) | |
| | 体育実技Ⅱ | | | | | | | |
| | 特別演習Ⅰ | | 健康スポーツ科学 | | | 死亡退職のため、平成21年度より(兼任)1名で担当(21) | | |
| | 特別演習Ⅱ | | | | | | | |
| | | | | | | 特別演習Ⅰ | 死亡退職のため、平成21年度より削除(21) | |
| | | 特別演習Ⅱ | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|---------|---|----|----|---------|------------------------|--|--|---------|
| 専 | 講師 | 平成19年4月 | 救命救助法 救急医学概論 救急搬送論 シミュレーションⅠ シミュレーションⅡ シミュレーションⅢ シミュレーションⅣ シミュレーションⅤ シミュレーションⅥ 救急車同乗実習 | 兼任 | 講師 | 平成20年4月 | 救急医学概論 | 実習科目との重複により講義担当困難のため、平成20年度より変更(21) | | |
| | | | | 兼任 | 講師 | | | 定年退職による専任等区分の変更(22)専任→兼任 | | |
| 専 | 助教 | 平成19年4月 | シミュレーションⅠ シミュレーションⅡ シミュレーションⅢ シミュレーションⅣ シミュレーションⅤ シミュレーションⅥ 救急車同乗実習 | | | | 救命救助法 | 実習指導の充実を図るため、平成19年度より科目を追加(21) | | |
| 専 | 助教 | 平成19年4月 | 救命救助法 シミュレーションⅠ シミュレーションⅡ シミュレーションⅢ シミュレーションⅣ シミュレーションⅤ シミュレーションⅥ 病院内実習 救急車同乗実習 | 専 | 助教 | 平成20年4月 | 救命救助法 | 実習指導の充実を図るため、平成20年度より変更(21) | | |
| | | | | | | | | 救命処置総論 | (教授)実習科目との重複により講義担当困難のため、平成21年度より科目を追加(21) | |
| | | | | | | | | シミュレーションⅠ | 育児休職中のため平成22年度より削除(22) (助教) | |
| | | | | | | | | シミュレーションⅢ | | |
| | | | | | | | | シミュレーションⅤ | | |
| | | | | | | | | | 病院内実習 | |
| | | | | 専 | 助教 | 平成22年4月 | 救急車同乗実習 | | | 救急車同乗実習 |
| 兼任 | 教授 | 平成19年4月 | 労働衛生法規Ⅱ | | | | | | | |
| 兼任 | 教授 | 平成19年4月 | 医学概論 | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成19年度より変更(21) | | |
| 兼任 | 教授 | 平成19年4月 | 生物有機化学Ⅰ 生物有機化学Ⅱ 化学実験 放射線概論 | 兼任 | 助教 | 平成19年4月 | 生物有機化学Ⅰ 生物有機化学Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成19年度より追加(21) | | |
| | | | | | | | | 薬理学 | (兼任)定年退職のため、平成20年度より科目を追加(21) | |
| | | | | | | | | 職業適性論 | 教育指導の充実を図るため、平成20年度より科目を追加(21) | |
| 兼任 | 教授 | 平成19年4月 | 生理学Ⅱ 職業適性論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 生理学Ⅱ | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より変更(21) | | |
| | | | | 兼任 | 教授 | 平成19年4月 | 職業適性論 | 教育指導の充実を図るため、平成20年度より追加(21) | | |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | 定年退職のため、平成22年度より削除(22) | | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|-----------------------|-----------------------------|------------------------|--|---------|--|--|
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | 兼任 | 教授 | | 平成22年4月 | 職業適性論 | 定年退職のため、平成22年度より削除(22) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 産婦人科学 | 兼任 | 准教授 | | 平成22年4月 | 産婦人科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 免疫学 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ | 兼任 | 教授 | | 平成20年4月 | 免疫学 | 病気退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | 特別講義Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 病気退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | | 開講日程の調整困難のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 病気退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | | 開講日程の調整困難のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | | | | | | 移植コーディネータ論 | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | | | | | | 兼任 | 講師 |
| | | | | | 開講日程の調整困難のため、平成22年度より削除(22) | | | | | |
| | | | | | 特別演習Ⅱ | 病気退職のため、平成20年度より変更(21) | | | | |
| | | | | | | | | | 開講日程の調整困難のため、平成22年度より削除(22) | |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 生化学 | | | | 生化学 | 定年退職のため、平成19年度より担当者を手塚敏春(兼任)に変更(21) | |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 医学概論 特別講義Ⅰ | | | | | 特別講義Ⅰ | 特別講義Ⅰについては、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) |
| | | | | | | | | | | 3年次前期に実習前教育の一環として見学実習を実施することとし、8月に集中講義として開講する前に院内の状況を理解することが可能となったため、平成22年度より配当年次4年次から3年次に変更(22) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学Ⅰ | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) |

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|--|----|----|----|---------|--|--|---------------------------|
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 無機化学 化学実験 | | | | | 無機化学 | 他学科との合同開講で、当初2名で担当していたが、少人数教育を図るため、当該学科単独開講とし、平成20年度より(兼任)1名で担当(21) | |
| | | | | | | | | | 化学実験 | 4名の担当を準備していたが、履修者に応じて平成21年度より(兼任)・(兼任)2名で担当(21) | |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学Ⅰ 医学概論 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ | | | | | 特別演習Ⅰ | 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | |
| | | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | | |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | | |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 微生物学 | 兼任 | 講師 | | 平成20年4月 | 微生物学 | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) | |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学Ⅱ 産業保健学 環境衛生工学 労働衛生法規Ⅰ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ | | 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 産業保健学 | 教育効果を高めるため、平成19年度より追加(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 教育効果を高めるため、平成21年度より追加(21) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成21年度より追加(21) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |

| | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|---|-------|---------|---------|--|
| | | | | | 兼担 助教 | 平成21年4月 | 特別演習 I | 教育効果を高めるため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | 兼担 助教 | 平成19年4月 | 特別演習 I | 教育効果を高めるため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | 職業適性論 | (兼担)定年退職のため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | | | | 特別演習 I | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 薬理学 | 兼担 教授 | 平成19年4月 | 薬理学 | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | 兼担 講師 | 平成19年4月 | 生命科学概論 | 他学科との合同開講で、履修者が多く、少人数教育を図るべく合同開講学科数を調整したため、平成19年度より変更(21) |
| | | | | | 兼担 教授 | 平成21年4月 | 細胞生物学 | 生命科学概論との体系を図ることとし、解剖学的視点からの教育を踏まえ、平成21年度より3名のうち2名を変更 (兼担)・(兼担)→(兼担)・(兼担)(21) |
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 生命科学概論 細胞生物学 生物学実験 特別演習 I 特別演習 II | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| | | | | | | | | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|---|----|-----|--|------------|--|--|
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |
| | | | | | | | | 移植コーディネータ論 | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) | |
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 基礎物理学 物理学 医用工学概論 | 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 医用工学概論 | 少人数教育を図るため、合同開講学科数を削減して開講した。これに伴い平成20年度より変更(21) (兼担)→ |
| | | | | | 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 医用工学概論 | (兼担)・ (兼担) |
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 人類遺伝学 公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ | | | | | 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |

| | | | | | | | | | |
|----|----|---------|---|-------|---|---------|-------|--|--|
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 外科学Ⅱ | 兼担 | 講師 | 平成21年4月 | 外科学Ⅱ | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より変更(21) | |
| | | | | 兼担 | 講師 | 平成21年4月 | 外科学Ⅱ | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より変更(21) | |
| | | | | 兼担 | 助教 | 平成21年4月 | 外科学Ⅱ | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より変更(21) | |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 特別講義Ⅰ | | | | 特別講義Ⅰ | 特別講義Ⅰについては、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) | |
| | | | | 兼担 | 准教授 | 平成22年4月 | 特別講義Ⅰ | 3年次前期に実習前教育の一環として見学実習を実施することとし、8月に集中講義として開講する前に院内の状況を理解することが可能となったため、平成22年度より配当年次4年次から3年次に変更(22) | |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 生理学Ⅰ | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 生理学Ⅰ | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より変更(21) | |
| | | | | | | | | 医用工学概論 | 少人数教育を図るため、合同開講学科数を削減して開講した。これに伴い平成20年度より科目の追加(21) |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 内科学Ⅴ | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) | |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 内科学Ⅳ | | | | | | |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 細胞生物学 医学英語 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ | | | | | 医学英語 | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成21年度より(兼担)1名に変更(21) |
| | | | | 兼担 | 講師 | 平成20年4月 | 解剖学Ⅰ | 開講形式をオムニバス方式に変更したため、平成21年度より追加(21) | |
| | | | | | | | 解剖学Ⅱ | 開講形式をオムニバス方式に変更したため、平成21年度より追加(21) | |
| | | | | 兼担 | 講師 | 平成22年4月 | 解剖学Ⅰ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より削除(22) | |
| | | | | | | | 解剖学Ⅱ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より(兼担)に変更(22) | |
| | | | | 兼担 | 講師 | 平成22年4月 | 解剖学Ⅱ | (兼担)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より担当者の変更(22) | |
| | | | | 兼担 | 助教 | 平成20年4月 | 解剖学Ⅰ | 開講形式をオムニバス方式に変更したため、平成20年度より追加(21) | |
| | | | | 特別講義Ⅱ | 講義内容を解剖学としたため、平成20年度より科目を追加(21) | | | | |
| | | | | | 講義内容を移植コーディネータに関係するものとしたため、平成22年度より削除(22) | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|--------------------------|----|-----|--|---------|---------|--|
| | | | | | | | | | 特別演習 I | 副題が変更になったことに伴い、平成21年度より変更(21) 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | 兼任 | 助教 | | 平成21年4月 | 特別演習 II | 副題が変更になったことに伴い、平成21年度より変更(21) 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 職業適性論 | 兼任 | 教授 | | 平成22年4月 | 職業適性論 | 定年退職のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学 I | 専 | 助教 | | 平成20年4月 | 精神医学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | 精神医学 | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学 I | 兼任 | 准教授 | | 平成21年4月 | 公衆衛生学 I | 公衆衛生学分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | 公衆衛生学 II | | | | | 産業保健学 | 教育効果を高めるため、平成19年度より科目を追加(21) |
| | | | | 労働衛生法規 I | | | | | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より科目を追加(21) |
| | | | | 職業適性論 | | | | | | |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 内科学VI | 専 | 教授 | | | 内科学VI | 開講曜日時限の調整困難のため平成20年度より変更(21) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 血液学 特別演習 I 特別演習 II | 兼任 | 教授 | | 平成20年4月 | 血液学 | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) |
| | | | | | | | | | 血液学 | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | | 血液学 | 定年退職のため、平成20年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | | 特別演習 I | 定年退職のため、平成20年度より削除(21) |
| 兼任 | 教授 | | 平成19年4月 | 外科学 I | 専 | 教授 | | 平成19年4月 | 外科学 I | 外科学における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | | | | 移植コーディネータ論 教育効果を高めるため、平成20年度より科目を追加(21) |

| | | | | | | | | | |
|---|----|---------|----------------------------------|--|--|--|---------|---------|--|
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 特別講義 I | | | | | 特別講義 I | 特別講義 I については、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) |
| | | | | | | | | | 3年次前期に実習前教育の一環として見学実習を実施することとし、8月に集中講義として開講する前に院内の状況を理解することが可能となったため、平成22年度より配当年次4年次から3年次に変更(22) |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 病理学 医学概論 特別演習 I 特別演習 II | | | | 平成21年4月 | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | | | | | 特別講義 I | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) |
| | | | | | | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | | | | | | | | | |
| 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | | | | | | | | | |
| 兼担 | 教授 | 平成19年4月 | 小児科学 | | | | 平成21年4月 | 小児科学 | 定年退職のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | | | | | 准教授 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|--|---------|----------------------|----|----|--|---------|------------|--|---------|---------|--------------------------------------|
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 医学概論 | 兼担 | 教授 | | 平成21年4月 | 医学概論 | 基礎医学の各分野における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より変更(21) | | | |
| | | | | | | | | 平成22年4月 | 移植コーディネータ論 | 教育効果を高めるため、平成20年度より科目を追加(21) | | | |
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 災害医学 特別講義 I | | | | | 特別講義 I | 特別講義 I については、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) | | | |
| | | | | | | | | | 兼担 | 助教 | 平成22年4月 | 災害医学 | 開講曜日時限の調整困難のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | | | | | | | | | | 特別講義 II | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) |
| 兼担 | 教授 | | 平成19年4月 | 特別講義 I | | | | | 特別講義 I | 特別講義 I については、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) | | | |
| | | | | | | | | | 兼任 | 講師 | 平成21年4月 | 特別講義 I | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 基礎生物学 | | | | | 移植コーディネータ論 | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) | | | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 内科学 V | 兼担 | 教授 | | | | 平成20年度より職位変更(21) | | | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 内科学 VI | | | | | | | | | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 法学(法の原理と理念) | | | | | | | | | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 法学(法の原理と理念) | | | | | | | | | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 基礎化学 無機化学 化学実験 | | | | | 化学実験 | 4名の担当を準備していたが、履修者に応じて平成21年度より(兼担)・(兼担)2名で担当(21) | | | |

| | | | | | | | | | |
|----|-----|---------|--------------------------------|----|-----|---------|------------------|--------------------------------------|---|
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 数学 統計学 特別演習 I 特別演習 II | | | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 外科学 I | 兼担 | 教授 | 平成21年4月 | 外科学 I | 特別演習 II | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 内科学 V | 兼担 | 教授 | 平成22年4月 | 内科学 V 特別講義 II | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) | |
| | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) | |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 外科学 I | 兼担 | 准教授 | 平成21年4月 | 外科学 I | 特別演習 I | 外科学における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | | | 外科学における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | | | 平成22年度より職位変更(22) |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 外科学 I | 兼担 | 講師 | 平成21年4月 | 外科学 I | 特別演習 II | 外科学における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | | | 平成22年度より職位変更(22) |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 公衆衛生学 II | | | | | | |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 公衆衛生学 II | | | | | | 退職に伴う身分変更(特別講師) |

| | | | | | | | | | |
|----|-----|---------|--------------------------|----|----|---------|---------|---|--|
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 生理学 I | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 生理学 I | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より変更(21) | |
| | | | | | | | | 医用工学概論 | 少人数教育を図るため、合同開講学科数を削減して開講した。これに伴い平成20年度より科目の追加(21) |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 日本国憲法 | | | | | | |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 生化学 特別演習 I 特別演習 II | 兼担 | 講師 | 平成19年4月 | 生化学 | 他学科合同開講で、当初2名で担当していたが、少人数教育を図るため当該学科を単独開講とし、平成19年度より(兼担)に変更(21) | |
| | | | | | | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| | | | | | | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | 特別演習 II | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) | |
| | | | | | | | 特別演習 II | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) | |
| 兼担 | 准教授 | 平成19年4月 | 医学英語 公衆衛生学 I | 兼担 | 教授 | | | 平成21年度より職位変更(21) | |
| | | | | | | | 特別演習 I | 教育効果を高めるため、平成21年度より科目を追加(21) | |
| | | | | | | | 特別演習 II | 教育効果を高めるため、平成21年度より科目を追加(21) | |
| | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) | |

| | | | | | | | | | | |
|----|-----|--|---------|----------------------------------|----|-----|--|------------|--|--|
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 情報処理演習 | | | | 情報処理演習 | 他学科合同開講で、当初3名で担当していたが、少人数教育を図るため、平成21年度より当該学科単独開講とし、(兼担)1名で担当(21) | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 外科学 I | 兼担 | 講師 | | 平成21年4月 | 外科学 I | 外科学における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | 兼担 | 教授 | | 平成21年4月 | 外科学 I | 外科学における、より専門性の高い教育指導の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 内科学IV | | | | | | |
| 兼担 | 准教授 | | 平成19年4月 | 小児科学 | 兼担 | 教授 | | | | 平成20年度より職位変更(21) |
| | | | | | 兼担 | 准教授 | | 平成22年4月 | 小児科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 公衆衛生学 II | | | | | | |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 心理学(自己と外界の心理学) | | | | | 他学部との合同科目で履修者が多く、2名で担当していたが、少人数教育を図るため、学部単独開講に変更した。これに伴い、平成21年度より(兼担)1名で担当(21) | |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 日本国憲法 特別講義 I | 兼担 | 准教授 | | | 特別講義 I | 平成21年度より職位変更(21) |
| | | | | | | | | | | 特別講義 I については、3年次後期に実施する「病院内実習」が終了した後、院内の状況を理解したうえで開講するのが望ましく、より教育効果を高めると判断したため、平成20年度より配当年次3年次から4年次に変更(21) |
| | | | | | | | | | | 3年次前期に実習前教育の一環として見学実習を実施することとし、8月に集中講義として開講する前に院内の状況を理解することが可能となったため、平成22年度より配当年次4年次から3年次に変更(22) |
| | | | | | | | | 移植コーディネータ論 | 教育効果を高めるため、平成22年度より科目を追加(22) | |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 整形外科学 | 兼担 | 講師 | | 平成21年4月 | 整形外科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | | 兼担 | 准教授 | | 平成22年4月 | 整形外科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 心理学(自己と外界の心理学) 発達心理学 教育心理学 | 兼担 | 准教授 | | | 心理学 | 平成20年度より職位変更(21) |
| | | | | | | | | | | 他学部との合同科目で履修者が多く、2名で担当していたが、少人数教育を図るため、学部単独開講に変更した。これに伴い、平成21年度より(兼担)1名で担当(21) |
| | | | | | 兼担 | 講師 | | 平成22年4月 | 教育心理学 | 開講曜日時限の調整困難のため平成22年度より変更(22) |

| | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|-------------------------------------|----|-----|---------|--------|--|
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 医療情報科学 情報処理演習 | 兼担 | 准教授 | | | 平成20年度より職位変更(21) |
| | | | | | | | | 情報処理演習 | 他学科合同開講で、当初3名で担当していたが、少人数教育を図るため、平成21年度より当該学科単独開講とし、(兼担)1名で担当(21) |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 内科学VI | 兼任 | 講師 | | | 退職のため、平成21年度より専任等区分の変更(21) |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 病院内実習 | 兼担 | 准教授 | | | 平成20年度より職位変更(21) |
| | | | | | | | | 外傷学 | 担当者退職のため、平成21年度より科目を追加(21) |
| | | | | | | | | 病院内実習 | 開講曜日時限の調整困難のため、平成22年度より削除(22) |
| | | | | | | | | 特別講義 I | 実習担当の調整困難のため平成22年度より削除(22) |
| | | | | | | | | | (兼担)開講曜日時限の調整困難による兼担辞退のため、平成22年度より担当者の変更(22) |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 細胞生物学 生物学実験 特別演習 I 特別演習 II | 兼担 | 講師 | 平成20年4月 | 細胞生物学 | 他学科との合同開講で、履修者が多く、少人数教育を図るべく合同開講学科数を調整したため、平成19年度より科目を追加(21) |
| | | | | | | | | 生命科学概論 | 生命科学概論との体系を図ることとし、解剖学的視点からの教育を踏まえ、平成21年度より3名のうち2名を変更 (兼担)・(兼担)→(兼担)・(兼担)(21) |
| | | | | | | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |

| | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|----------------------------|----|-----|---------|--------|--|
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 特別演習Ⅱは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| 兼担 | 講師 | | 平成19年4月 | 生理学Ⅱ | 兼担 | 准教授 | | | 平成20年度より職位変更(21) |
| | | | | | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 生理学Ⅱ | 2名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成20年度より変更(21) |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 小児科学 | | | | 小児科学 | 退職のため、平成21年度より(兼担)・(兼担)・(兼担)・(兼担)で担当(21) |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 病院内実習 | | | | 病院内実習 | 当初実習指導教員として7名を準備していたが、実習期間を延長したことにより、1グループの学生数を減らすことが可能となったため、4名の実習教員で担当が可能となった。これに伴い実習担当から除外(21) |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 産業保健学 環境衛生工学 労働衛生法規Ⅰ | 兼担 | 助教 | 平成21年4月 | 環境衛生工学 | 教育効果を高めるため、平成21年度より追加(21) |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 教育効果を高めるため、平成21年度より科目を追加(21) |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成21年度より科目を追加(21) |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅰ | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成21年度より科目を追加(21) |
| | | | | | | | | 特別演習Ⅱ | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | | | | | 平成20年度より職位変更(21) |
| | | | | | | | | 人類遺伝学 | 2名が担当を準備していたが、履修者数に応じて平成19年度より(兼担)1名に変更(21) |
| | | | | | | | | | 特別演習Ⅰは、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |

| | | | | | | | | | |
|----|----|---------|-------------------------------|----|-----|--|---------|-----------|---|
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 人類遺伝学 特別演習 I 特別演習 II | 兼担 | 講師 | | | 特別演習 I | 特別演習 I は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| | | | | | 講師 | | | 特別演習 II | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、これまで開講されていない。(21) |
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 災害医学 | 兼担 | 講師 | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より配当学年に3・4年を追加(22) |
| | | | | | 准教授 | | | | 特別演習 II は、各年度ごとに副題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているが、平成22年度開講されていない。(22) |
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 健康スポーツ科学 体育実技 I 体育実技 II | 専任 | 助教 | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | | | | | 健康スポーツ科学 | 3名の担当を準備していたが、履修者数に応じて平成21年度より(兼任)1名で担当(21) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 小児科学 | 兼担 | 准教授 | | 平成22年4月 | 小児科学 | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| | | | | | | | | | 教育効果を高めるため、平成22年度より追加(22) |
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 小児科学 | 兼担 | 准教授 | | 平成21年4月 | 小児科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | 退職のため、平成22年度より削除(22) |
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 公衆衛生学 II | | | | | | |
| 兼担 | 助教 | 平成19年4月 | 化学実験 | | | | | 生物有機化学 I | 教育効果を高めるため、平成19年度より科目を追加(21) |
| | | | | | | | | 生物有機化学 II | |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|--|----|-----|--|----------|--|---|
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 外科学Ⅱ | 兼担 | 助教 | | 平成21年4月 | 外科学Ⅱ | 退職のため、平成21年度より変更(21) |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 外科学Ⅱ | 兼担 | 講師 | | 平成21年4月 | 外科学Ⅱ | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より変更(21) |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 小児科学 | 兼担 | 准教授 | | 平成22年4月 | 小児科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 情報処理演習 | | | | | | |
| 兼担 | 助教 | | 平成19年4月 | 小児科学 | | | | | 小児科学 | 退職のため、平成21年度より(兼任)・(兼任)・(兼任)・(兼任)で担当(21) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 民俗学(各国の民間伝承と歴史認識) | 兼任 | 講師 | | 平成21年4月 | 民俗学(各国の民間伝承と歴史認識) | 退職のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | | | | | | | (兼任)退職のため、平成22年度未開講(22) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 英語Ⅲ | 兼任 | 講師 | | 平成21年4月 | 英語Ⅲ | 退職のため、平成21年度より(兼任)1名に変更(21) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 英語Ⅲ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 職業適性論 | | | | | | |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 日本語表現法 | 兼任 | 講師 | | 平成19年10月 | 日本語表現法 | 退職のため、平成19年度より変更(21) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 哲学(生と死-その論理と倫理) 倫理学(人間とは何か---時代と人間認識) 生命倫理学(生と死-その論理と倫理) | 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 哲学(生と死-その論理と倫理) 倫理学(人間とは何か---時代と人間認識) 生命倫理学(生と死-その論理と倫理) | 退職のため、平成19年度より変更(21) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 救急医学概論 | | | | | 救急医学概論 | 退職のため、平成21年度より(教授)・(兼任)2名で担当(21) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 移植コーディネータ論 | | | | | | |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 英会話 | 兼任 | 講師 | | 平成21年4月 | 英会話 | 退職のため、平成21年度より(兼任)1名に変更(21) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |

| | | | | | | | | |
|----|----|---------|------------------------|----|-----|---------|------------------------|---|
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 英語Ⅰ 英語Ⅱ | 兼任 | 講師 | 平成21年4月 | 英語Ⅰ | 退職のため、平成21年度より (兼任)1名に変更(21) |
| | | | | | | | 英語Ⅱ | 退職のため、平成21年度より (兼任)1名に変更(21) |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 小児科学 | 兼任 | 講師 | 平成22年4月 | 英語Ⅰ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | | | | | 英語Ⅱ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 小児科学 | 兼任 | 助教 | 平成21年4月 | 小児科学 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | 兼任 | 准教授 | | 平成22年4月 | 小児科学 |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 移植コーディネータ論 | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 移植コーディネータ論 | 退職のため、平成20年度より変更(21) |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 救急処置各論 外傷学 | | | | 救急処置各論 | 退職のため、平成21年度より (教授)・ (兼任)2名で担当(21) |
| | | | | 兼任 | 准教授 | 平成19年4月 | 外傷学 | 退職のため、平成21年度より変更(21) 開講曜日時限の調整困難のため、平成22年度より削除(22) |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | フランス語Ⅲ フランス語会話 | | | | フランス語Ⅰ | (兼任)開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成19年度より科目の追加(21) |
| | | | | | | | フランス語Ⅱ | |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ | 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | フランス語Ⅰ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成19年度より変更(21) |
| | | | | | | | フランス語Ⅱ | |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | シミュレーションⅢ シミュレーションⅣ | 専 | 助教 | 平成21年4月 | シミュレーションⅢ シミュレーションⅣ | 退職のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | | | 平成22年4月 | | 実技指導の充実を図るため、平成22年度より専任等区分の変更(22) 兼任→助教 |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 英語Ⅲ 英語Ⅳ | 兼任 | 講師 | 平成21年4月 | 英語Ⅲ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 英語Ⅲ |
| | | | | 兼任 | 講師 | 平成21年4月 | 英語Ⅳ | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より変更(21) |
| | | | | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 英語Ⅳ |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 外科学Ⅱ | 専 | 教授 | 平成19年4月 | 外科学Ⅱ | 外科学における、より専門性の高い教育の充実を図るため、平成21年度より追加(21) |
| 兼任 | 講師 | 平成19年4月 | 英語Ⅰ 英語Ⅱ | 兼任 | 講師 | 平成21年4月 | 英語Ⅰ | 退職のため、平成21年度より (兼任)1名に変更(21) |
| | | | | | | | 英語Ⅱ | 退職のため、平成21年度より (兼任)1名に変更(21) |

| | | | | | | | | | | | |
|----|----|--|---------|----------------------|----|----|--|---------|---------------------|----------------------|---|
| | | | | | | | | | | 英語 I | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | | | | | | | | 英語 II | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 社会学(人間と社会—社会学の新たな展開) | | | | | | | |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 英会話 | 兼任 | 講師 | | | 平成21年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成21年度より(兼任)1名に変更(21) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | | 平成22年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | | 平成22年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 英会話 | 兼任 | 講師 | | | 平成21年4月 | 英会話 | 退職のため、平成21年度より(兼任)1名に変更(21) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | | 平成22年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| | | | | | 兼任 | 講師 | | | 平成22年4月 | 英会話 | 開講曜日時限の調整困難による兼任辞退のため、平成22年度より変更(22) |
| 兼任 | 講師 | | 平成19年4月 | 芸術(いろいろな音楽のルーツを訪ねて) | 兼任 | 講師 | | 平成22年4月 | 芸術(いろいろな音楽のルーツを訪ねて) | 退職のため、平成22年度より変更(22) | |

(注) ・設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈表題〉を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・年齢は、就任年度に関わりなく、「届出時の計画」には開設時現在の満年齢を、「変更状況」には平成22年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。

(2) 専任教員数

| 届出時の計画 | | | | | | 変更状況 | | | | | | 備考 |
|--------|-----|-----|-----|------|-----|------|------|------|-----|-----|-----|----|
| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 助手 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 助手 | |
| 6 | 1 | 1 | 2 | 10 | 0 | 5 | 0 | 0 | 8 | 13 | 0 | |
| (6) | (1) | (1) | (2) | (10) | (0) | [△1] | [△1] | [△1] | [6] | [3] | [0] | |

(注) ・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成22年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

| 番 号 | 職 位 | 専任教員氏名 | 辞任（就任辞退を含む）等の理由 |
|-----|-----|--------|--------------------------------------|
| 1 | 教授 | | 医院開業のため退職 |
| 2 | 教授 | | 定年により退職（平成21年度客員教授で採用、平成22年3月31日付退職） |
| 3 | 准教授 | | 死亡により退職 |
| 4 | 講師 | | 定年により退職（平成22年度より客員教授で採用） |

(注) ・届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

| |
|---|
| <p>教授退職に伴う教員交代については、以下のとおりである。</p> <p>「医学概論」 (教授)：講義は基礎医学、臨床医学の各専門分野の教員が担当しており、オムニバス形式であるため、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「内科学Ⅰ」 (兼担)：講義は循環器系の内容で、 (兼担)も循環器内科を専門としているため、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「病院内実習」 (助教)：実習担当として、救急救命センターで学生の指導にあたる予定であったが、 (助教)は救急救命センターに勤務していた経験があり、また救急患者への処置等を熟知しているため、教員交代に伴う実習及び学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「特別講義Ⅱ」 (兼担)：開講内容を救急救命学科に特化した局所解剖学とし、また解剖学分野を専門とする (兼担)が担当することで、より専門的な知識の習得並びに教育効果を高めることができるため、教員交代に伴う学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「医療コミュニケーション学」 (兼担)：心理学を専門としており、コミュニケーションスキルを熟知しているため、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「ボランティア活動」・「インターンシップ」・「卒業研究」：複数担当者科目で、他の専任教授が担当するので、退職に伴う学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>教授退職に伴う大学の所見については、以下のとおりである。</p> <p>「健康スポーツ科学」 (助教)：平成20年度まで当該科目をコマ担当しており、教員交代に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「体育実技Ⅰ」： (助教)は平成19年度より、 (兼任)は平成21年度より当該科目を担当しており、教員退職に伴う学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「体育実技Ⅱ」： (助教)は平成19年度より、 (兼任)は平成21年度より当該科目を担当しており、教員退職に伴う学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「特別演習Ⅰ」・「特別演習Ⅱ」：各年度ごとに副題(担当題(担当者の専門分野のテーマ))を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているため、教員退職に伴う演習及び学生への影響はないと考えられる。</p> <p>なお、学生には履修要目にて周知した。</p> <p>「ボランティア活動」・「インターンシップ」・「卒業研究」：複数担当者科目で、他の専任教授が担当するので、退職に伴う学生への</p> |
|---|

影響はないと考えられる。

なお、学生には履修要目にて周知した。

准教授退職に伴う大学の所見については、以下のとおりである。

「健康スポーツ科学」 (助教)：平成20年度まで当該科目をコマ担当しており、教員退職に伴う講義及び学生への影響はないと考えられる。

なお、学生には履修要目にて周知した。

「体育実技Ⅰ」 (兼任)：平成21年度より当該科目を担当しており、教員退職に伴う学生への影響はないと考えられる。

なお、学生には履修要目にて周知した。

「体育実技Ⅱ」 (兼任)：平成21年度より当該科目を担当しており、教員退職に伴う学生への影響はないと考えられる。

なお、学生には履修要目にて周知した。

「特別演習Ⅰ」・「特別演習Ⅱ」：各年度ごとに副題(担当題(担当者の専門分野のテーマ)を提示のうえ、複数の教員が担当することとし、学生は、いずれかの教員の副題を選択し、履修をする形態をとっているため、教員退職に伴う演習及び学生への影響はないと考えられる。

なお、学生には履修要目にて周知した。

(注)・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

| 区 分 | 留 意 事 項 | 履 行 状 況 | 未履行事項について の実施計画 |
|------------------------------|---------|---------|--------------------|
| 設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月) | 該当なし | | |
| | | | |
| | | | |

- (注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<保健学部 救急救命学科>

(1) 設置計画変更事項等

| 届出時の計画 | 変更内容・状況、今後の見通しなど |
|--------|------------------|
| | 変更なし |

(注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、届出時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置届出書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

| |
|---|
| <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 常置委員会の中に運営委員会を設置し、その中でFD委員会を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 運営委員会は、毎月1回開催し、学部長、教務部長、学生部長、その他の委員（教員）8名で構成している。</p> <p>c 委員会の審議事項等 制度に関する事項、学部運営に関する事項、予算に関する事項、将来構想に関する事項、FDに関する事項、について審議している。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>①授業方法についての研究会（外部講師による講演会等） ②授業評価アンケート ③教員相互の授業参観 ④教員評価</p> <p>b 実施方法</p> <p>①外部講師を招き、授業方法改善の取り組みについての講演会を実施した。 ②学生による授業評価アンケートを毎学期実施している。結果は教員へフィードバックし、ホームページにも掲載している。 ③授業評価アンケート結果の優良者を学科ごとに選定し、その教員の授業を全教員に見学するよう求め、見学後、授業改善策に関するレポートを提出させている。また、授業実施教員との討論会も実施している。 ④評価シート様式を作成し、その様式に基づき各教員が自己評価を行い、評価結果を提出させ、評価委員による面接を実施している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>①講演は、年に数回程度実施しており、多数の教員が参加している。 ②授業評価アンケートは、原則として全授業で実施している。 ③年1回、授業見学を実施している。多数の教員が授業見学及び討論会に参加している。 ④年1回、全教員が自己評価を行い、評価委員の面接を受けている。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 各教員へフィードバックする授業評価アンケート結果や、講演会、授業見学、討論会などで得た知見をもとに、各教員が自ら授業改善策を検討し、実際の授業で実践している。</p> |
|---|

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

救急救命学科は、高い倫理観を持ち、救急救命の最前線で求められる迅速かつ確かな状況判断能力と傷病者の状況観察に基づく適切な処置技術を有する人材を養成することを目的としている。また、専門教育だけにとどまらず、消防署の応急手当普及員講習を1年次に受講させ、地域の小・中・高等学校や一般市民向け心肺蘇生法の講習会などにインストラクターとして参加させることにより、地域社会に貢献し、社会性を身に付けるための学生教育を積極的に行っている。

開講科目については、幅広い医学的な専門知識と傷病者搬送における技術の習得を目指し、講義、実習ともに学科の特色を生かした、きめ細やかな少人数教育を実践している。特に実習においては、単なる技術の習得だけでなく、いかなる状況でも冷静かつ的確に対応できるよう、反復訓練を継続的に実施している。

学生に対しては、入学当初から救急救命士の受験資格取得、また消防職に就くために何をしたらよいのかを周知徹底することにより、モチベーションの向上に努めている。教員については、学年担任に関わらず、学科教員全員で学生の指導にあたっており、さらに各学年末には面接指導を実施し、学生の現状を把握するよう常に努めている。その結果、中途退学者については、各学年につき1～3名程度と最小限にとどめている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・年1回公表している。（例年2月頃）

b 公表方法

・杏林大学の現況（自己点検・自己評価のためのデータブック）を年1回刊行し、監督官庁をはじめ他大学等に配布している。また、大学ホームページ上でも公開している。

③ 認証評価を受ける計画

・平成20年度に財団法人大学基準協会の認証評価を受けたところであり、次回7年以内に評価を受けるべく、今後検討を行っていく。

（注）・届出時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

| | |
|--|---|
| ○ 設置計画履行状況報告書 | |
| a ホームページに公表の有無 | (有 ・ 無 <input checked="" type="radio"/>) |
| b 公表予定時期 | (年 月 日) |
| c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク | (<input checked="" type="radio"/> 承諾する <input type="radio"/> 承諾しない) |
| d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス | (http://www. 未定) |

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp
件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。